

島活プロジェクト報告書

～稚内・利尻島・礼文島訪問記録～

報告：吉山音々

目次

1 島活プロジェクトの概要	3
1-1 島活プロジェクトとは	3
1-2 これまでの交流	4
1-3 利尻島昆布干しバイト	4
1-4 今回の交流	5
2 2025年8月訪問の概要	6
2-1 参加メンバー	エラー! ブックマークが定義されていません。
2-2 スケジュール	6
3 訪問地と概要	7
3-1 稚内(1・5日目)	7
3-1-1 地図	7
3-1-2 各地の概要	7
3-2 礼文島(2日目)	9
3-2-1 地図	9
3-2-2 各地の概要	9
3-3 利尻島(2~4日目)	11
3-3-1 地図	11
3-3-2 各地の概要	11
4 初の礼文島訪問	14
4-1 経路	14
4-2 礼文島と利尻島の地理的特徴の違い	14
4-3 礼文島と利尻島の植生	15
4-3-1 礼文島の植生	15
4-3-2 利尻島の植生	16
4-3-3 小括	16
5 あそびどころとの交流	17
5-1 プレゼン内容	17
5-2 デザートづくり	17
5-3 事前準備	18
5-4 小括	19
6 今後の課題	20
7 結びに代えて	21

1 島活プロジェクトの概要

1-1 島活プロジェクトとは¹

島活プロジェクト(以下、「プロジェクト」という。)は、北海道利尻島との交流を通じて、「多くの子どもたちが利尻島の雄大な自然に触れ、環境問題に対する意識をはぐくむと同時に、利尻島を第二の故郷に感じてほしい」という思いのもと、2021年に立ち上げられました。プロジェクトは、NPO 法人 NCM ジャパンと協働する花園教会水族館(以下、「水族館」という。)および花園ジョイフル子ども会(以下、「子ども会」という。)の活動の一環として実施されています。発起人は、子ども会の活動に関わっていた学生ボランティアの S 氏であり、学生主導のプロジェクトであるという特徴があります。

¹ 他田直生「2024年 島活プロジェクト ～島活プロジェクト初の冬季訪問記録～」(2025年10月28日最終閲覧) <[rishiri_houkoku_2024.2.pdf](#)>。

1-2 これまでの交流²

年月	交流内容	備考
2021年8月	利尻島訪問 (1回目)	・島の漁師の方との交流 引率子ども人数：2名
2022年8月	利尻島訪問 (2回目)	・島の個人塾「あそびどころ」 ³ にて島の子どもたちと交流 引率子ども人数：3名
2022年8月 ～2024年1月	オンライン 交流会 (計4回)	・あそびどころとの交流(クイズ、折り紙等) 第4回オンライン交流会掲載新聞(あそびどころ代表 廣瀬諒氏撮影)： https://d.kuku.lu/uz45rkw6
2024年1月	利尻島訪問 (3回目)	・初の冬季訪問 ・あそびどころとの交流(食術支援) 引率子ども人数：0名 報告書： rishiri_houkoku_2024.2.pdf
2024年8月	利尻島訪問 (4回目)	・あそびどころとの交流(ゲーム、水族館や生物に関するプレゼン) ・利尻町教育長との対談 ・利尻島トレッキングツアー 引率子ども人数：2名 報告書： https://www.ncmjapan.org/rishiri2024s.pdf
2025年8月 (今回)	利尻島訪問 (5回目)	・あそびどころとの交流(関西・京都に関するプレゼン、デザートづくり) ・利尻島&礼文島トレッキングツアー 引率子ども人数：2名

1-3 利尻島昆布干しバイト

水族館・子ども会と利尻島との間にはもう1つの交流があります。それが、水族館・子ども会メンバーの「**利尻島昆布干しバイト**」(以下、「昆布バイト」という。)への参加⁴です。昆布

² 同上、山内理菜「夏季利尻島訪問報告書」(2025年10月28日最終閲覧)

〈<https://www.ncmjapan.org/rishiri2024s.pdf>〉。

³ 利尻あそびどころ「利尻あそびどころ」(2025年10月28日最終閲覧)

〈<https://asobidokoro.localinfo.jp/>〉。

⁴ 昆布バイトに参加した学生の体験記として、小林大祐「小林君の利尻滞在記」(2025年10月28日最終閲覧) 〈<https://www.kyotohanasui.com/rishiristay>〉。

バイトでは、数か月間、利尻島に住み込みで利尻昆布の干し作業を行います。

これまでに、水族館・子ども会から2名が昆布バイトに参加しており、彼らを通じて島の漁師や住民の方々との交流が続いています。こうした継続的な関わりにより、島とのつながりをさらに深めることができます。

今回の交流に際しても、過去に昆布バイトに参加した学生と、今回の訪問期間中に昆布バイトに参加していた学生が、訪問の計画や島の方々との連絡に協力してくれ、活動を円滑に進めることができました。

1-4 今回の交流

今回の交流は、5回目の訪問となりました。

今回は、前年度まで行ってきた**あそびどころとの交流**に加え、**初の礼文島訪問**も実施するなど、これまでの交流で築いてきた人とのつながりを活かしながら、新たな活動に挑戦し、さらなる学びへと発展させることができました。これまでプロジェクトに関わっていただいた皆様、そして交流を通じてつながった皆様に、心より感謝申し上げます。

また、今回の交流は、水族館による**クラウドファンディング**⁵を通じて多くのご支援をいただいたことで、新たな活動に挑戦し、新しい学びを得ることができました。クラウドファンディングの返礼品には、昆布バイトなどのこれまでの交流を通じて関係を築いてきた漁師の方々のご協力を得て、水族館・子ども会ボランティアの学生が加工した利尻昆布のほか、過去の交流時に撮影した利尻島の写真を用いたポストカードやフォトブックなども採用されました。水族館およびプロジェクトを支援してくださった皆様、クラウドファンディングの実施にご協力くださった関係者の皆様にも、改めて深く感謝申し上げます。

⁵ 花園教会水族館「27年の創設 15周年を目指す存続をかけたクラウドファンディング」
(2025年11月1日最終閲覧) 〈<https://www.kyotohanasui.com/next2027>〉。

2 2025年8月訪問の概要

スケジュール

	8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)	
5~6時		朝食				
6~7時	京都駅→品川駅(新幹線)	稚内港→香深港(フェリー)				
7~8時						
8~9時			朝食	朝食	朝食	
9~10時			礼文島自然散策	利尻町立博物館	利尻島自然散策	ノシャップ寒流水族館
10~11時	羽田空港→稚内空港(飛行機)	礼文島トレッキングツアー	神居海岸パーク	SUP	宗谷岬	
11~12時			利尻島自然散策			昼食
12~13時						
13~14時	レンタカー受取		入浴			
14~15時	宗谷岬周辺散策	昼食				
15~16時						
16~17時		香深港→鴛泊港(フェリー)		鴛泊港→稚内港(フェリー)	稚内空港→羽田空港(飛行機)	
17~18時		利尻島トレッキングツアー	あそびどころ交流準備		レンタカー返却	
18~19時	入浴			入浴		
19~20時	夕食	入浴	あそびどころ交流		品川駅→京都駅(新幹線)	
20~21時				夕食		
21~22時		夕食				
22~23時						
23~24時						

で、北の寒冷地に生息する多くの生き物が見られます⁷。

最も印象的だったのは回遊水槽エリアで、特に目を引いたのは「幻の魚」と呼ばれる**イトウ**です。イトウは現在、国内では北海道にのみ分布しており、絶滅危惧種にも指定されています。そのイトウが多数泳ぐ姿を間近で見ることができ、非常に圧倒されました。ほかにも、北の環境に生きる様々な生物について、観察したり、解説パネルを読んだりして、学びを深めることができました。



また、アザラシの餌やりやドクターフィッシュ、ヒトデやナマコに触れられるタッチプールなど、体験コーナーも充実していました。実際に生物と触れ合い、表情や質感を感じることができる貴重な体験となりました。

併設の稚内市青少年科学館南極越冬隊資料展コーナーでは、南極の石や犬そりなど、普段なかなか目にすることのできない展示物が多く、大変興味深く見学することができました。

②宗谷岬(5日目)

宗谷岬は、日本本土の最北端に位置します。私たちが訪れた日は、オホーツク海の向こうにサハリン島(樺太)を望むことができ、その雄大な景色に圧倒されました。周辺には鹿も多数見られ、彼らの生活の様子を間近で観察することもできました。



③風車の道(5日目)

風車の道とは、「宗谷丘陵」の斜面に設置された日本最大級のウィンドファーム⁸を指します。宗谷丘陵は、氷河期の地盤の凍結と融解の繰り返しによって形成された「**周氷河地形**」と呼ばれる地形で、丸みを帯びた稜線⁹と曲線が織りなす美しい景観が特徴です。



また、丘陵の牧草地には放牧された牛を見ることもでき、北の地ならではの地形・風景を楽しむことができました。

⁷ 北海道稚内市「わっかりうむ ノシャップ寒流水族館」(2025年11月4日最終閲覧)

[〈https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/suizokukan/〉](https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/suizokukan/)。

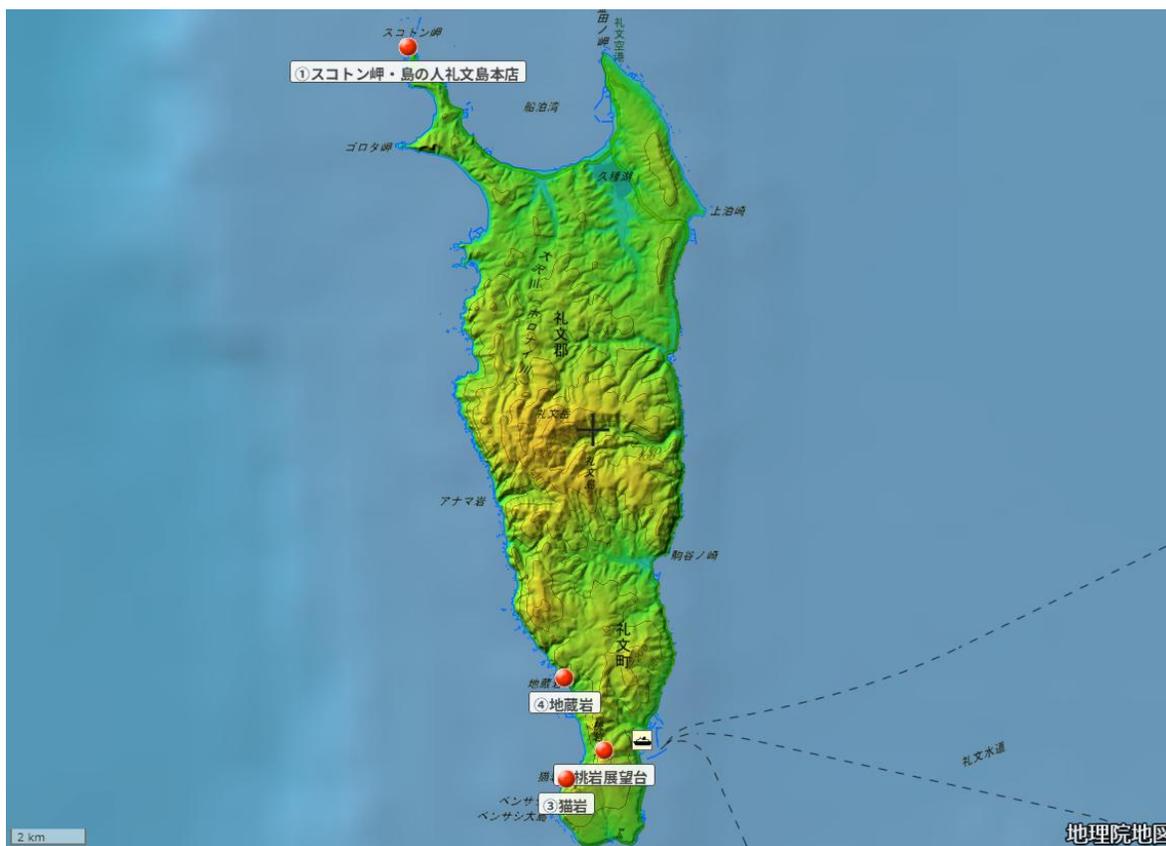
⁸ ウィンドファームとは、複数の風力発電機を1か所に設置し、全体を1つの発電所として運営する施設のこと。

⁹ 「宗谷丘陵」(稚内・利尻・礼文観光 WEB サイト、2025年11月4日最終閲覧)

[〈https://www.north-hokkaido.com/spot/detail_1020.html〉](https://www.north-hokkaido.com/spot/detail_1020.html)。

3-2 礼文島(2日目)

3-2-1 地図(Web サイト「地理院地図/GSI Maps」¹⁰にて作成)



※①～④の番号は時系列順にふっています。

3-2-2 各地の概要

①スコトン岬・島の人礼文島本店

スコトン岬は礼文島最北端に位置し、晴れた日にはサハリン島を望むことができます。あいにく、私たちが訪れた日は雨天だったため、そのような景色を見ることはできませんでした。近くにある「島の人礼文島本店」で、利尻・礼文島ならではのお土産などを見ることができました。

¹⁰ 国土地理院「地理院地図/GSI Maps」(2025年11月4日最終閲覧)

<<https://maps.gsi.go.jp/>>。

中でも目を引いたのは、**トド肉の缶詰**です。店頭の商品紹介によると、トドはウニなどを食べてしまい、礼文島の漁業に被害をもたらす存在であるため、その被害の拡大を防ぐために捕獲されるそうです。こうして**捕獲されたトドを食品として加工・販売**することで、命を無駄にせず、**生態系の保護と地域産業の活性化を両立**させようとする取り組みが印象的でした。

②～④桃岩展望台・猫岩・地蔵岩

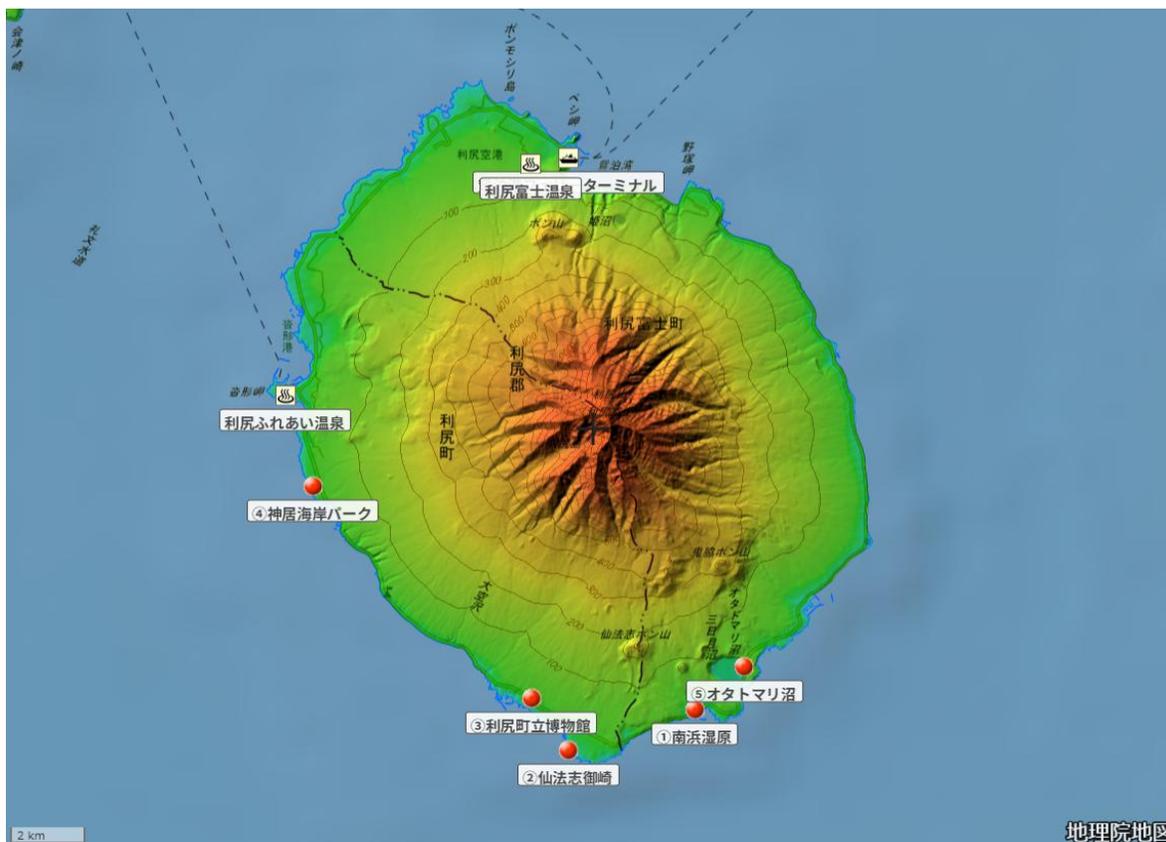
桃岩・猫岩・地蔵岩は、3大奇石と呼ばれ¹¹、それぞれその名に似た形状をしています。

私たちは、これら3岩を一望できる桃岩展望台をめざして、「桃岩展望台コース（桃岩口）」をトレッキングしました。トレッキングに際しては、自然ガイドの方にガイドしていただき、礼文島特有の地形や植生などについて詳しく学ぶことができました(詳細は後述。)

¹¹ 「桃台猫台」(稚内・利尻・礼文観光 WEB サイト、2025 年 11 月 4 日最終閲覧)
<https://www.north-hokkaido.com/spot/detail_1144.html>。

3-3 利尻島(2～4日目)

3-3-1 地図(Web サイト「地理院地図/GSI Maps」¹²にて作成)



※①～⑤の番号は時系列順にふっています。

3-3-2 各地の概要

① 南浜湿原(2日目)

南浜湿原は、利尻島最大の高層湿原です。一般的に、湿原は標高が高い場所に形成されるのに対し、南浜湿原は**海の近くで、標高が低い位置にある**点が特徴です。ガイドのK氏によると、これは利尻島が寒冷地であることが要因だそうです。

湿原内には遊歩道があり、**ミズゴケ**や**サワギキョウ**といっ



¹² 国土地理院「地理院地図/GSI Maps」(2025年11月4日最終閲覧)

[〈https://maps.gsi.go.jp/〉](https://maps.gsi.go.jp/)。

た湿地帯特有の植物のほか、**アカエゾマツ**や**利尻アザミ**(日本固有種)など、寒冷地・北海道ならではの植物を観察することができました。

また、**外来種**である**オオハンゴンソウ**も多数見られ、その数は礼文島よりも多かったです。こういった外来種の駆除などについてもお話も伺うことができ、環境保全の重要性を改めて学ぶ良い機会となりました。

②仙法志御崎(2日目)

仙法師御崎は、利尻島の最南端に位置します。噴火した利尻山の溶岩流により形成された奇岩とそれらで構成される複雑に入り組んだ海岸線を見ることができました。

また、海浜性植物の**シロヨモギ**も多数観察され、利尻島の自然環境の多様さを感じました。



③利尻町立博物館(3日目)

利尻町立博物館では、**利尻島の自然や歴史、人々の生活**など、島に関する様々な資料が展示されています。

自然分野で特に興味深かったのは、かつて利尻島がサハリン島や日本本土と地続きであった時代が存在したという点です。地続きであった時代に、本来は海を渡ることのできない生物が利尻島へ渡ることができました。その結果、島となった現在でもそうした生物の生息が確認されており、これが利尻島の生物多様性の一因となっていると考えられます。

人々の生活分野では、主に水産業について紹介されており、実際に使われた船や道具、復元されたニシン番屋¹³等の展示を通して、水産業が島の主要産業であったことを実感しました。

ほかにも、トドなどはく製や利尻島特有の生物の写真なども展示されていました。

博物館の職員の方にもお話を伺うことができ、これまでのフィールドワークで実際に観察してきた地形や生物についての理解を深め、また、利尻島の自然・歴史・文化を多角的に学ぶ貴重な機会となりました。



④神居海岸パーク(3日目)

神居海岸パークは、島の漁業に関する様々な体験ができる施設です。ここでは、「ウニむき

¹³ 「番屋」とは、ここでは、漁師の作業場や宿泊施設を意味する。

体験「昆布お土産作り体験」「カニ釣り体験」ができます。

私たちはこの内、「**昆布お土産作り体験**」をさせて頂きました。体験では、利尻昆布1枚をはさみなどの道具を使って加工し、「花折昆布」「昆布だしパック」「おしゃぶり昆布」をつくりました。実際に自分たちの手で加工することで、島の産業を実感することができました。



⑤オタトマリ沼(3日目)

オタトマリ沼は、利尻島最大の湖沼であり、晴れた日には湖面越しに利尻山を望むことができます。

沼周辺には、飲食店もあり、ホタテや熊笹茶・はまなすソフトなど、北海道ならではのグルメも楽しむことができました。



⑥SUP(4日目・場所が不明だったので地図に記載なし)

SUPとは、Stand Up Paddleboardの略称で、ボードの上に立ってパドルを漕ぎ、水面を進むウォーターアクティビティです。

体験では、利尻山などの景色を眺めながら、ウニやナマコなどの海の生物を観察することができました。京都ではなかなか体験する機会の少ないアクティビティを通して、島の自然を味わうことができ、大変貴重な経験となりました。

4 初の礼文島訪問

今回は、プロジェクト初の礼文島訪問を行いました。

礼文島では、前回の訪問時にもお世話になった自然ガイドの方にガイドをしていただき、トレッキングツアーを実施しました。

4-1 経路(2日目)

稚内～礼文、礼文～利尻の移動にはフェリーを使用しました。詳細は以下の通りです。

時間	場所	所要時間
6時30分～8時25分	稚内港→香深港	1時間55分
	礼文島トレッキングツアー	
15時30分～16時15分	香深港→鴛泊港	45分
～日没	利尻島トレッキングツアー	

4-2 礼文島と利尻島の地理的特徴¹⁴の違い

	礼文島	利尻島
島の形状	南北に細長い	円形
標高	490m	1721m
成り立ち	海底の隆起	火山活動

以上のように、礼文島と利尻島は隣接する島でありながら、地形や地質などに大きな違いが見られます。このような違いが、両島の植生や気候の違いにも影響を及ぼしています。

¹⁴ 北海道礼文町「礼文町の概要」(2025年11月5日最終閲覧)

https://www.town.rebun.hokkaido.jp/hotnews/detail_sp/00000300.html、離島経済新聞「礼文島の情報」(2025年11月5日最終閲覧)

https://ritokey.com/shima/hokkaidou/hokkaidou_rebunto、離島経済新聞「利尻島の情報」(2025年11月5日最終閲覧) https://ritokey.com/shima/hokkaidou/hokkaidou_rishirito 参照。

4-3 礼文島と利尻島の植生

4-3-1 礼文島の植生

礼文島では、桃岩展望台コース(桃岩口)～桃岩展望台のトレッキングツアーを行いました。

礼文島の特徴は、**海沿いの低地でありながら高山植物¹⁵を観察することができる点**であり、桃岩一帯の高山植物群落は国指定天然記念物に指定されています。また、高山植物は花が多彩であり、礼文島は「**花の浮島**」とも呼ばれます。

一般的に、高山植物は標高約 2500m 付近で見られ、**①平均気温が低い、②風が強い、③陽射しが強く紫外線が多い**といった厳しい環境下で生育します。礼文島は、**①寒冷地かつ高山がないため上昇気流が発生しにくく、夏でも霧が多いこと、②高山がないため風通しがよく、風が強い(特に西海岸)こと、③①②の環境により高木の成育が厳しく、紫外線を遮るものが少ないこと**などの要因から、低地でありながら高山植物が生育できる環境が形成されました。

その特徴をよく表していたのが、尾根から見た島の東西の植生の違いです。西側は風が強い**ため、高木はほとんど見られず、背丈の低い植物が多い**のに対し、東側は比較的風が穏やかであるため、木々の数は少ないものの、**西側よりも高く成長している植物が多く**見られました。また、この風の影響は地形にも表れており、西海岸は**切り立った断崖絶壁**となっており、東海岸は**なだらかな地形**となっています。この対照的な景観は非常に印象的でした。

ツアーでは、**千島笹**をはじめ、花としては**リシリブシ**や**礼文島固有種**の**レブンソウ**などを観察することができました。礼文島は低地でありながら多くの高山植物や島特有の植物が見られ、植生の違いを学ぶうえで非常に適した場所であると感じました。



¹⁵ 高山植物は、寒冷地に適した植物が、気候変動に伴い高山に取り残されたもの(桃岩展望台コース(桃岩口)看板より)。

4-3-2 利尻島の植生

今回のツアーは礼文島メインであったため、これまでのように利尻山やボン山などへの登山は実施しませんでした。南浜湿原や仙法師御崎などを訪問し、礼文島とは異なる利尻島特有の地形や植生についても学ぶことができました(詳細は3-3)。

また、今回は**在来種と外来種の問題**に関連するガイドもお願いしており、道中では、**ハンゴンソウ(在来種)**と**オオハンゴンソウ(外来種)**などを紹介して頂きました。利尻島では、**礼文島に比べて多くの外来種が観察されました**。また、外来種問題への対策として、出入り口に靴裏を洗浄するための設備が設置されている場所もあり、利尻島では外来種の侵入・拡散防止に強く意識が向けられていることがうかがえました。



4-3-3 小括

初の礼文島訪問を通じて、様々な高山植物を比較的容易に観察することができ、また、隣接する利尻島との地形や植生等の違いを学ぶことができました。実際にこういった違いを目で見て学ぶことができたことは、非常に貴重な経験であり、他の場所での自然観察の際にも、地形・気候と植生との関係を考える視点を養う良い機会になりました。

今後のプロジェクトでも、ぜひ礼文島訪問を継続して実施してほしいと感じます。ただ、比較の観点からは、利尻島でのトレッキングツアーも継続的に実施していくことが望ましいと考えます。今回の訪問を通じて、**礼文島と利尻島の両方を1日で巡ることは時間的に難しい**と感じたため、今後は隔回で利尻島メインの回と礼文島メインの回を設けるといった計画をする必要があると考えます。その際には、**トレッキングツアーしない方の島について事前学習を十分に行うこと**で、相互の比較や理解をより深めることができると考えます。

また、利尻島・礼文島の植物は季節によって観察できる種類が異なるため、訪問時期を変えて実施することも、新たな発見や学びを得る上で有効ではないかと考えました。

5 あそびどころとの交流

今回の訪問でも、あそびどころの子どもたちとの交流を行いました。

今回は、食事をとりながら水族館ボランティア3名がプレゼンを行い、その後、一緒にデザートづくりを行うという内容でした。



5-1 プレゼン内容

前回訪問の際のプレゼンでは、水族館や自然に関するテーマを扱いましたが、今回は文化交流を通じて関西や京都に興味を持ってもらうことを目的に、**関西・京都**に関するテーマを扱いました。

1人目は、「**京都の食べ物**」について紹介しました。その際、プレゼン内で紹介した天下一品のインスタントラーメンやわらび餅を持参し、その場で島の子どもたちに試食もしてもらいました。皆で味の感想を伝え合ったり、島の食べ物との違いを話したりして、楽しく交流することができました。実際の体験を取り入れたことで、より強い関心を引き出すことができたと思います。

2人目は、「**自身の職業訓練での経験や京都のお気に入りスポット**」について紹介しました。レストランや清掃など様々な職場での労働体験を通じて、働くことの大変さややりがいを子どもたちに伝えました。また、京都のお気に入りスポットについては、自身が撮影した写真を見せながらプレゼンを行うことで、子どもたちも明確なイメージをもつことができ、とても興味を持って聞いてくれました。

3人目は、今年大阪で開催された「**万博**」について紹介しました。実際に訪れた際の写真や見どころ、オンラインでの参加方法についてプレゼンしました。全国的な話題となっていたこともあり、子どもたちはとても興味を示していました。中には修学旅行で万博を訪れる予定の子どももおり、特に熱心に話を聞いてくれていたのが印象的でした。

5-2 デザートづくり

プレゼン後には、皆で一緒にベビーカステラとラッシーづくりを行いながら交流しました。今回はプレゼンが3名と多く、時間が限られていたこともあり、島の子どもたちとの交流前

に、会場を開けて頂いて準備を進めていたため、スムーズにデザートづくりに移ることができました。

調理中は、一緒につくったり食べたりしながら、プレゼン内容に関する話題や、京都と島での学校生活・文化の違いなどについて会話が弾んでいました。最初は少々緊張が見られましたが、次第に打ち解け、最後は参加者全員が積極的に交流を楽しむことができました。

また、今回は、**あそびどころの子どもたちに加え、利尻町立博物館の職員の方や、H氏の知り合いの大学生も参加**されていました。子ども同士の交流にとどまらず、学生と社会人、学生同士の交流の場にもなっており、話題の幅が広がって、新たな学びやつながりが生まれたと思います。同世代同士の親しみやすい交流はもちろん、異なる世代との会話を通じて新しい考え方や視点にも触れられた交流となりました。

5-3 事前準備

交流前には、様々な事前準備を行いました。

まず、現地のH氏と連絡を取り、交流場所の予約や交流時間前に会場へ入れるかの確認をお願いするとともに、プレゼンの方法や機材の確認、デザートづくりに使用する道具や子どもたちのアレルギー情報の確認などについて打ち合わせを行いました。計画を進める中で新たな疑問点が生じ、その都度連絡を取り合うという形だったため、直前に焦らないためにも、早めに準備を進めておくことが重要だと感じました。

また、デザートづくりに関しては、子どもたちのアレルギーなどに配慮しながらレシピを細かく調べ、事前に水族館での食術支援で練習するなど、念入りの準備をしていました。実際、練習の過程で課題が見つかり、作るメニューやレシピの一部を変更することになったため、事前の練習の大切さを改めて感じました。

さらに、詳細なレシピをまとめ、練習を行っていたことで、交流前の現地での買い物や事前準備もスムーズに進めることができました。特にこのように時間が限られた交流活動では、事前の計画と準備を万全に整えておくことの重要性を強く感じました。

一方で、今回の交流では、**プレゼンの時間が想定よりも長引いてしまい**、デザートづくり自体は行えたものの、片付けの時間が十分に取れず、退出時刻に間に合わないという課題もありました。このことから今後は、事前準備として、**より厳密なタイムテーブルを設定したり、ボランティアメンバーのみでプレゼンの事前練習を行ったり、また当日に司会やタイムキーパーを設けたりする**といった工夫が必要だと感じました。

5-4 小括

関西・京都に関するプレゼンや、前回とは異なる年代のメンバーも交えた交流を通して、お互い新たな発見や関心を得られる、充実した交流となりました。

また、今回の交流を通じて、事前準備の大切さを改めて実感しました。早めに計画を立て、段取りを整えておくことで、当日の進行をより円滑にできること、また、実際に島の子どもたちが見たり触れたりできるような体験的要素を取り入れると、興味を引き出しやすいことを学びました。

一方で、プレゼンの時間が予定よりも長引いたことで、片付けが慌ただしくなり、退出時刻に間に合わないという課題もありました。今後は、タイムテーブルを明確に設定し、プレゼンの事前練習を行うことや、当日にタイムキーパーをや司会を設けて進行を管理するといった工夫をしていきたいです。

また、今後もあそびどころとの交流を継続し、今回のプレゼンを通して京都に関心を持ってくれた子どもたちが、例えば**将来的に実際に京都を訪問する**など、**双方向的な活動**へと発展させていければと考えています。

6 今後の課題

今後の課題は、主に2つあります。

1つ目は、5-3でも述べたように、時間が限られている活動に関しては、**事前準備**をしっかり行い、限られた時間の中でも円滑に進行できる体制を整えることです。今回の学びを活かし、今後の交流では、**事前準備の段階でより厳密なタイムテーブルを設定したり、活動の流れに沿った事前練習を行ったり**といった工夫を取り入れていきたいです。

2つ目は、これまでのプロジェクトに関わってくださった**島の方々と連絡を取れるメンバーを増やしていくこと**です。今回は、プロジェクトの代表が、島の方々とほとんどの連絡を担っていましたが、その負担は大きかったと思います。また、現在のプロジェクトメンバーは3・4回生が中心であるため、今後の訪問時には、一度も島を訪れたことのない・島の方々と交流したことがないメンバーのみで構成される可能性も懸念されます。今後の活動を継続し、円滑に進行するためには、島の方々と顔見知りを増やし、複数のメンバーが連絡を分担できる体制を整えることが必要であると感じました。そのために、今後は、より多くの水族館・子ども会メンバーにプロジェクトに参加してもらえるよう、**訪問後の報告会や定期的なオンライン交流会などを通じて活動を紹介し、参加を促す工夫**をしていきたいです。

7 結びに代えて

今回のプロジェクトでは、自然散策（初めての礼文島訪問）とあそびどころとの交流を中心に活動を行いました。

新しい試みである礼文島訪問では、普段なかなか見ることのできない高山植物を観察し、ガイドの方の説明を通して利尻島との地形や植生の違いを学ぶことができました。また、島で問題となっている外来種についても理解を深めることができました。

あそびどころとの交流では、島の子どもたちに関西・京都に関心を持ってもらうことを目的にプレゼンを行い、その後、一緒にデザートづくりをしながら、生活や文化について語り合いました。博物館の職員の方や他の学生とも交流する機会があり、これまでとは少し異なる形での交流を通して、多様な人とのつながりを感じることができました。今後もメンバーを増やしながら、こうした人と人とのつながりをさらに広げていきたいと思えます。

今回得た新たな学びや人とのつながりを大切に、今後の活動に活かしていきたいです。また、課題として挙げた新たなメンバーの確保にも積極的に取り組みたいと考えています。

これまでのプロジェクトを通じて築いてきた島の方々とのつながりや、クラウドファンディングによるご支援のおかげで、今回、新たな活動を展開し、新しい学びを得ると同時により深いつながりを築くことができました。プロジェクトに関わっていただいた皆様に、心より感謝申し上げます。



参照

- ・ 国土地理院「地理院地図/GSI Maps」(2025年11月4日最終閲覧)
〈<https://maps.gsi.go.jp/>〉
- ・ 小林大祐「小林君の利尻滞在記」(2025年10月28日最終閲覧)
〈<https://www.kyotohanasui.com/rishiristay>〉
- ・ 「宗谷丘陵」(稚内・利尻・礼文観光WEBサイト、2025年11月4日最終閲覧)
〈https://www.north-hokkaido.com/spot/detail_1020.html〉
- ・ 他田直生「2024年 島活プロジェクト ～島活プロジェクト初の冬季訪問記録～」(2025年10月28日最終閲覧) 〈[rishiri_houkoku_2024.2.pdf](#)〉
- ・ 花園教会水族館「27年の創設15周年を目指す存続をかけたクラウドファンディング」(2025年11月1日最終閲覧) 〈<https://www.kyotohanasui.com/next2027>〉
- ・ 北海道礼文町「礼文町の概要」(2025年11月5日最終閲覧)
〈https://www.town.rebun.hokkaido.jp/hotnews/detail_sp/00000300.html〉
- ・ 北海道稚内市「わっかりうむ ノシャップ寒流水族館」(2025年11月4日最終閲覧)
〈<https://www.city.wakkanai.hokkaido.jp/suizokukan/>〉
- ・ 利尻あそびどころ「利尻あそびどころ」(2025年10月28日最終閲覧)
〈<https://asobidokoro.localinfo.jp/>〉
- ・ 離島経済新聞「利尻島の情報」(2025年11月5日最終閲覧)
〈https://ritoeki.com/shima/hokkaidou/hokkaidou_rishirito〉
- ・ 離島経済新聞「礼文島の情報」(2025年11月5日最終閲覧)
〈https://ritoeki.com/shima/hokkaidou/hokkaidou_rebunto〉
- ・ 山内理菜「夏季利尻島訪問報告書」(2025年10月28日最終閲覧)
〈<https://www.ncmjapan.org/rishiri2024s.pdf>〉